

実践事例

ICTを活用した器械運動の実践

～ 第4学年 「チャレンジ! マット運動」より ～

八頭町立郡家西小学校 山本 正人

1 はじめに

八頭郡小学校教育研究会の第1回指定研修（情報教育部会）において、ICTを効果的に活用した授業を公開した。その際、体育・特活部会の研究主題「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開 ～豊かなかかわりと学びを大切にしたい体育学習～」をもとにした学習過程を構想し、実践を積み上げた。

また、本校には体育専科教員が配置されており、体育学習における意欲の高まりとより確かな技能の習得をめざして、指導内容を明確にした学習に努めてきた。

2 指導の実践

(1) 児童の実態

○本学級の児童は、男子14名女子16名である。学級全体の傾向として、休憩時間に友達と誘い合って遊具や一輪車で遊んだり、サッカーや鬼ごっこをしたりして遊ぶ姿が見られ、元気に体を動かして遊ぶことを好む児童が多い。

○事前の意識調査では、マット運動が「好き」と肯定的に答えた児童が80%いた。「体育学習は好きだが、マット運動は苦手だ。」という児童が6名いる。その理由として、「うまくできない」「こわい」等が挙げられる。実態調査によると、基本的な回転技である前転や後転ができない児童が約半数いる。また、腕支持により逆さになることに不安を感じている児童が数人いることが分かった。

○前単元の「レッツダンス」においては、友達の動きの良さに気づき、認め合う様子が見られた。

(2) 単元目標

○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。【態度】

○基本的な技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぼうとしている。【思考・判断】

○マット運動の楽しさや喜びに触れ、基本的な回転技や倒立技ができる。【技能】

(3) 学びへの働きかけ（指導の意図）

○単元の前半は、これまでの学習でつかんだ感覚を生かすとともに、補助具等を使った易しい場のもとで動きの習得を図る時間を多く設定した。後半は、新しい技に挑戦したり習得した技を活用し、技を繰り返したり組み合わせたりする時間を多く取るようにした。

○児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した運動遊びを取り入れたり、易しい課題の場を用意したりした。また、児童が基本的な回転技や倒立技を身に付けることができるよう、導入の段階で基礎となる感覚を段階的に習得できる運動を取り入れた。（大きなゆりかご、かえるの足打ち等）

○技能ポイントを提示し、互いの技能をよりよくさせるために、教え合いや励まし合いによりグループの仲間同士のかかわりを中心に学習を進めた。（3人1組のグループを編成し、単元を通して学び合いの仲間とした。）

○視聴覚機材（児童の動きを映像としてパソコンに取り込み、遅延再生）で自分や仲間の動きのよ

さに気付かせることで、学び合いの場を充実させた。

○準教科書「わたしたちの体育」のイラストを動きづくりの参考にさせたり、学習の振り返りを記入させることで、学びの成果をとらえさせたりした。

《ICT活用について》

- ・映像遅延再生については、「前転」および「大きな前転」に取り組む場を中心に行った。10秒後にノーマルスピードで再生するように設定した。映像を見ることをきっかけに教え合い・学び合いの場とした。

※LAG MIRROR (映像遅延再生ソフト) <http://soft.tele.jp/lagmirror/>

- ・体育科の学習時間外（給食時間）にマット運動のアニメーション動画を見せて、動きのイメージや技能ポイントをつかませるきっかけとした。

※「子どもと先生のための器械運動の指導のコツ・中島先生の体育教室」

<http://taiiku17.web.fc2.com/>

- ・デジタルカメラの連写機能で撮影した画像を各時間の終末で紹介し、学習のまとめおよび次時の学習への意欲付けとした。



(4) 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単 元 の 評 価 規 準	器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲良く運動しようとしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。	自分の力にあった基本的な回転技や倒立技ができる。
学 習 に お け る 具 体 的 評 価 規 準	① 技ができる楽しさや喜びに触れ、マット運動に進んで取り組もうとしている。 ② 器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励ましあって運動しようとしている。 ③ 友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ④ 運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。	① 技の動き方や技のポイントを知り、自分の力にあった課題を選んでいる。 ② 提示された資料や教師の助言から、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。	① マットを使って、前転・後転・壁倒立・腕立て横跳び越しができる。

(5) 指導と評価の計画（6時間）

1	2	3	4（本時）	5	6
ほぐしの運動（動物歩き、手押し車、丸太転がり、横転がり 等） めあての確認					
オリエンテーション・ 技能調査をする。 ・用具の安全な運び方 を知る。 ・自分にあつためあて をもつ。 ・運動をするグループ を決める。 ・映像遅延再生装置の 活用方法を知る。	やってみよう （補助運動） ・ゆりかご ・首倒立 ・壁登り倒立 ・肋木登り倒立 等				
	活動① 「いろいろな技ができるようになろう。」 回転技 ・前転 ・後転 倒立技 ・壁倒立 ・腕立て横跳び越し				活動① 活動② 《発表会》 ・できる技を 発表する。 ・互いの演技 からよい ところを 見つけ発 表し、認め 合う。 ・まとめをす る。
	活動② 「新しい技にチャレンジしたり、できる技を組み合わせたりしよう。」 ・大きな前転（2～5時） ・開脚前転（3～5時） ・開脚後転（3～5時） ・側方倒立回転（5時） ・技の繰り返し（5時） ・技の組み合わせ（5時）				
	学習の振り返り				
関③（観） 思①（観）	関②（観）（わ） 思②（観）	技①（観） 思①（観）（発）	関①（観）（わ） 思②（観）（発）	技①（観） 関④（観）	技①（観） 関①（わ）
（観）・・・観察		（わ）・・・準教科書「わたしたちの体育」		（発）・・・発言	

3 成果（○）と課題（●）

- 体育専科教員とともに指導にあたることにより、今まで以上に指導内容を明確にした授業展開を意識することができた。また、より個に応じた適切な指導をすることができた。
- 「わたしたちの体育」の挿絵を活用することや映像遅延再生を利用することで、児童同士で技のポイントを意識した言葉かけができるようになった。
- 映像遅延再生を技能の高まりにいかすために、どのような使い方をすれば、より有効に活用することができるかを考えていく必要がある。

